ありがとう 48周年

コープみやざきのあゆみ

( )内は組合員数

1973年度（設立時690人）

設立当時の朝日新聞記事

宮崎市民生協設立の大役を果たした小川 洋子さん（宮崎市平和ケ丘西町）

聞きたい 市民の声

市民生協が誕生

宮崎 より安くより安全に

子供すこやかたのもの 婦人の願いが結実

設立総会のようす

5月29日
生協の誕生日
宮崎市民生協設立総会

1974年度（1,621人）
- 9月8日、宮崎南部市民生協設立（日南市）。
- 宮崎市内を5つの地区に分けて、地区担当制を実施する。

1975年度（2,256人）
- 機関紙の名称が「にじのわ」に決定。毎月1回発行とする。
- トラック上での品揃えから、班単位の雑誌めへ変更に。

商品を知ってもらい加入をすすめるために、展示・販売を行っていました。

1978年度（3,575人）
- 発泡スチロールの保冷箱を利用し始める。

1980年度（5,681人）
- 「宮崎県民生活協同組合」に名称変更。
- 宮崎市東部支所、都城支所を開設する。

1982年度（9,023人）
- 宮崎市内の支所を一本化する。
- 延岡支所を開設する。
- 米の注文が始まる。

地域のみなさんに生協を知ってもらうために、立ち寄ろう場所の家に立て作りの旗。

延岡での展示販売会の様子

1983年度（14,337人）
- 4月、宮崎南部市民生協と合併する。
- 商品センターが完成。
- 商品の開発・改善、くらしを守る運動が、みんなの声をもとに行われるように組合員組織の運営へしくみを変える。

1984年度（22,179人）
- 回覧注文から、個人ごとの注文にしくみを変える「CUR」を導入。
- 週単位の口座振替を始める。
- 宮崎県民生協開発商品第1号となる、CO・OPもめん豆腐、が完成。

1985年度（34,149人）
- 高鍋・小林・宮崎西・宮崎南支所を開設する。

1986年度（42,885人）
- 交通死亡事故を起こし、二度と事故を起こさないために安全の取り組みを強める。
- 注文用紙に商品名の印字を始める。個人別に納品請求書を配布できるようになる。
- 機関紙「にじのわ」が毎週発行になる。

1987年度（50,800人）
- 共済の取り扱いを始める。
- 宮崎北・宮崎東支所を開設する。

1988年度（61,618人）
- 週二回配達で、1500品目の品揃えを行い、個人別集品になる。
- 11月、店舗第1号の柳丸店がオープン。

1989年度（69,996人）
- 週二回配達を止める。前年度が赤字のため、初めて出資配当ができなかった。
- 除去食品カタログの取り扱いて、アレルギーで困っている組合員さんの願いに応えることができる。

1990年度（80,206人）
- 五ケ瀬町・五ケ瀬町農協・県民生協の三者による、五ケ瀬ふれあいの里、が完成。

1991年度（95,719人）
- 旅行事業を始め、航空券の手配や、宿泊の斡旋などができるようになる。
- 9月、都城に都北店がオープン。

1992年度（106,914人）
- 組合員数が10万人を超える。
- 環境測定を始める。

1993年度（115,239人）
- 宮崎本部事務所を宮崎市瀬頭に移転。
- 生協設立20周年を迎え、「20周年のあゆみ」を発行。

1994年度（129,555人）
- 11月、佐土原店がオープン。
- これまで業者委託だった、五ケ瀬町・高千穂町・南郷村・西郷村・西米良村に、直接配達ができるようになる。

1996年度（148,400人）
- 6月、大塚店（宮崎市）・11月、日知屋店（日向市）がオープン。
- 店舗版機関紙となる「ハロー！コープ」の配布を始める。
- 住宅センターを新設する。

大塚店　日知屋店　佐土原店　コープみやざき本部　都北店　ふれあいの里　柳丸店　商品センター　COOPもめん豆腐　延岡での展示販売会の様子　商品を知ってもらい加入をすすめるために、展示・販売を行っていました。

- オイルショックでトイレットペーパー買いだめ
- オセロゲーム発売
- ゴキブリホイホイ・新登場
- 與竹の筆ペン発売
- 刑事コロンボの放送開始
- 「うちのかみさんがね…ちょっとだけよ」「亭主元気で留守がいい」が流行語に
- 交通標語「狭い日本なんなに急いでどこへ行く」
- ノストラダムスの大予言発刊
- 長嶋茂雄現役引退
- ベルばらブーム
- グイラガイト人気
- 3億円事件時効
- 日本初テレビゲーム「テレビテニス」発売
- インベーダーゲーム大人気
- 任天堂ゲーム&ウォッチ
- 竹の子族
- 山口百恵と三浦友和結婚
- 五百円硬貨発行
- ソニー世界初CDプレーヤー
- パソコンブーム
- 東京ディズニーランド開園
- おしん最高視聴率
- 映画ET
- ファミコンブーム
- オーストラリアからコアラが来日
- ダイアナ妃来日
- 昭和から平成に
- カラオケボックス人気
- 花金
- 朝シャン
- 携帯電話登場
- ラブストーリーは突然に
- 101回目のプロポーズ
- 千代の富士引退
- バブル崩壊
- ずっとあなたが好きだった
- 皇太子・雅子様ご結婚
- サッカーJリーグ開幕
- オウム真理教事件
- アムラー
- 羽生善治七冠
- たまごっち
- プリクラ

1997年度（162,267人）

1998年度（170,670人）
- 5月、赤江店（宮崎市）がオープン。

1999年度（180,868人）
- 10月、浜町店（延岡市）がオープン。
- 共同購入の、時間外電話注文センター、がスタート。
- 生活サービスセンターで、コープBOOKセンター、がスタート。
- 一人からでも共同購入を利用できる個人受取場所が2ヵ所でスタート。
- 4月、小林店がオープン。
- 店舗受取班、を全店舗に設置。

店舗受取班（大塚店）　赤江店　小林店　浜町店

2000年度（185,201人）
- 一人・二人からでも配達ができる、「戸別配達」がスタート。
- 生活サービスで、「宅配復員プレフォ サービス」、「フラワー宅配サービス」、「CDビデオセンター」がスタート。
- 店舗で利用できる、「コープみやざき商品券」の運用スタート。

商品券 500円

2001年度（189,316人）
- 一人・二人からでも配達ができる、「戸別配達」がスタート。
- 生活サービスで、「宅配復員プレフォ サービス」、「フラワー宅配サービス」、「CDビデオセンター」がスタート。
- 店舗で利用できる、「コープみやざき商品券」の運用スタート。
- 組合員一人ひとりの声を、丁寧に聴いて応えることを強めるため、「組合員の声カード（わが家の声カード）」の配布をスタート。
- 「コープにこにこ便」をスタート。
- ホームページスタート。

2002年度（194,603人）
- 組合員の「くらし」を基本に食品の量目見直しを行う。
- 二人世帯用のくらしを提案する。
- 組注文用紙が両面になり、600品目の商品名が掲載されるようになる。

2003年度（198,242人）
- 4月、かおる坂店（宮崎市）がオープン。
- 高千穂支所を開設する。
- 共同購入の注文がインターネットでできるようになる。
- 生協設立30周年を迎える。
- 正式名称を、生活協同組合コープみやざき、に変更。

2004年度（201,145人）
- 情報システム部門を㈱CMSとして別会社で設立。
- 組合員数が20万人を超える。

2005年度（207,729人）
- 7月、花繰店（都城市）がオープン。
- 共同購入にこにこ便で冷凍品の取り扱いができるようになる。

2006年度（213,610人）
- 4月、花ケ島店（宮崎市）がオープン。
- 共同購入で、商品注文登録制度、がスタート。

2007年度（219,595人）
- 3月、高鍋店がオープン。

かおる坂店　花繰店　花ケ島店　高鍋店

2009年度（227,360人）
- 1月、本郷店（宮崎市）がオープン。
- 組合員さんの要望に応え、「戸別配達サービス料」の減額開始年齢が70歳から65歳になる。
- 自治体指定「ごみ袋（延岡市・旧宮崎市・旧都城市・旧佐土原町・日南市）」が共同購入で注文できるようになる。

2010年度（233,897人）
- 10月、主子製紙生協と合併する。
- 注文用紙に、過去一年間に利用した商品の網掛けを始める。

2011年度（237,267人）
- 4月、日南店がオープン。

2012年度（240,142人）
- 10月、日知屋店が財光寺店として新築移転オープン。

2013年度（242,743人）
- 設立40周年を迎える。「傘寿おめでとう企画」を始める。

2017年度（251,169人）
- 3月17日、宮脇店（宮崎市）オープン。

2018年度（253,450人）
- 設立40周年を迎え、色々な企画を実施しました。
- 第9回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞「最高賞の「経済産業大臣賞」を受賞しました。

賞状とたて　経済産業大臣賞授賞式のようす

2019年度（255,654人）
- 延岡支所が新築移転しました。新築に当たり、冷凍・冷蔵の施設も新設しました。

2020年度（260,138人）（2021年2月現在）
- 10月31日、北小路店（延岡市）オープン。
- 「日本でいちばん大切にしたい会社？」にコープみやざきが掲載されました。
- 「歳末満のお子さんがいらっしゃる組合員さんへの、戸別配達サービス料減額」、赤ちゃん戸配サービス、が実現しました。

本郷店　合併調印式のようす　日南店　財光寺店　宮脇店　北小路店

- 1973年度（設立時690人）
- 1974年度（1,621人）
- 1975年度（2,256人）
- 1978年度（3,575人）
- 1980年度（5,681人）
- 1982年度（9,023人）
- 1983年度（14,337人）
- 1984年度（22,179人）
- 1985年度（34,149人）
- 1986年度（42,885人）
- 1987年度（50,800人）
- 1988年度（61,618人）
- 1989年度（69,996人）
- 1990年度（80,206人）
- 1991年度（95,719人）
- 1992年度（106,914人）
- 1993年度（115,239人）
- 1994年度（129,555人）
- 1996年度（148,400人）
- 1997年度（162,267人）
- 1998年度（170,670人）
- 1999年度（180,868人）
- 2000年度（185,201人）
- 2001年度（189,316人）
- 2002年度（194,603人）
- 2003年度（198,242人）
- 2004年度（201,145人）
- 2005年度（207,729人）
- 2006年度（213,610人）
- 2007年度（219,595人）
- 2009年度（227,360人）
- 2010年度（233,897人）
- 2011年度（237,267人）
- 2012年度（240,142人）
- 2013年度（242,743人）
- 2017年度（251,169人）
- 2018年度（253,450人）
- 2019年度（255,654人）
- 2020年度（260,138人）（2021年2月現在）

- 世界中で、新型コロナウイルスが猛威を振るう。
- 新型コロナウイルスの影響で2020東京オリンピックが延期
- 7月よりレジ袋有料化スタート
- アニメ映画「鬼滅の刃」
- 平成から令和に
- ラグビーW杯日本大会で日本チームが活躍「ONE TEAM」の言葉が流行
- テニスの大坂なおみ選手が全豪テニス大会に優勝し、世界ランク1位となる
- カーリング人気「そだねー」
- 高校サッカー、鵬翔高校初優勝
- 高校野球、延岡学園準優勝
- 半沢直樹
- 宮崎牛二大会連続日本一
- コーすけ君誕生
- サッカーワールドカップ・女子なでしこジャパン優勝
- 3月11日東日本大震災
- K-POPブーム
- 食べるラー油がブーム
- CMの子ども店長が人気
- 世界中で、新型コロナウイルスが猛威を振るう。
- 新型コロナウイルスの影響で2020東京オリンピックが延期
- 7月よりレジ袋有料化スタート
- アニメ映画「鬼滅の刃」
- 平成から令和に
- ラグビーW杯日本大会で日本チームが活躍「ONE TEAM」の言葉が流行
- テニスの大坂なおみ選手が全豪テニス大会に優勝し、世界ランク1位となる
- カーリング人気「そだねー」
- 高校サッカー、鵬翔高校初優勝
- 高校野球、延岡学園準優勝
- 半沢直樹
- 宮崎牛二大会連続日本一
- コーすけ君誕生
- サッカーワールドカップ・女子なでしこジャパン優勝
- 3月11日東日本大震災
- K-POPブーム
- 食べるラー油がブーム
- CMの子ども店長が人気
- 1973年度（設立時690人）
- 1974年度（1,621人）
- 1975年度（2,256人）
- 1978年度（3,575人）
- 1980年度（5,681人）
- 1982年度（9,023人）
- 1983年度（14,337人）
- 1984年度（22,179人）
- 1985年度（34,149人）
- 1986年度（42,885人）
- 1987年度（50,800人）
- 1988年度（61,618人）
- 1989年度（69,996人）
- 1990年度（80,206人）
- 1991年度（95,719人）
- 1992年度（106,914人）
- 1993年度（115,239人）
- 1994年度（129,555人）
- 1996年度（148,400人）
- 1997年度（162,267人）
- 1998年度（170,670人）
- 1999年度（180,868人）
- 2000年度（185,201人）
- 2001年度（189,316人）
- 2002年度（194,603人）
- 2003年度（198,242人）
- 2004年度（201,145人）
- 2005年度（207,729人）
- 2006年度（213,610人）
- 2007年度（219,595人）
- 2009年度（227,360人）
- 2010年度（233,897人）
- 2011年度（237,267人）
- 2012年度（240,142人）
- 2013年度（242,743人）
- 2017年度（251,169人）
- 2018年度（253,450人）
- 2019年度（255,654人）
- 2020年度（260,138人）（2021年2月現在）

- 6月、大塚店（宮崎市）・11月、日知屋店（日向市）がオープン。
- 店舗版機関紙となる「ハロー！コープ」の配布を始める。
- 住宅センターを新設する。
- 11月、佐土原店がオープン。
- これまで業者委託だった、五ケ瀬町・高千穂町・南郷村・西郷村・西米良村に、直接配達ができるようになる。
- 宮崎本部事務所を宮崎市瀬頭に移転。
- 生協設立20周年を迎え、「20周年のあゆみ」を発行。
- 組合員数が10万人を超える。
- 環境測定を始める。
- 週二回配達を止める。前年度が赤字のため、初めて出資配当ができなかった。
- 除去食品カタログの取り扱いて、アレルギーで困っている組合員さんの願いに応えることができる。
- 週二回配達で、1500品目の品揃えを行い、個人別集品になる。
- 11月、店舗第1号の柳丸店がオープン。
- 旅行事業を始め、航空券の手配や、宿泊の斡旋などができるようになる。
- 9月、都城に都北店がオープン。
- 五ケ瀬町・五ケ瀬町農協・県民生協の三者による、五ケ瀬ふれあいの里、が完成。
- 共済の取り扱いを始める。
- 宮崎北・宮崎東支所を開設する。
- 4月、宮崎南部市民生協と合併する。
- 商品センターが完成。
- 商品の開発・改善、くらしを守る運動が、みんなの声をもとに行われるように組合員組織の運営へしくみを変える。
- 回覧注文から、個人ごとの注文にしくみを変える「CUR」を導入。
- 週単位の口座振替を始める。
- 宮崎県民生協開発商品第1号となる、CO・OPもめん豆腐、が完成。
- 高鍋・小林・宮崎西・宮崎南支所を開設する。
- 交通死亡事故を起こし、二度と事故を起こさないために安全の取り組みを強める。
- 注文用紙に商品名の印字を始める。個人別に納品請求書を配布できるようになる。
- 機関紙「にじのわ」が毎週発行になる。
- 宮崎市内を5つの地区に分けて、地区担当制を実施する。
- 宮崎市内の支所を一本化する。
- 延岡支所を開設する。
- 米の注文が始まる。
- 発泡スチロールの保冷箱を利用し始める。
- 「宮崎県民生活協同組合」に名称変更。
- 宮崎市東部支所、都城支所を開設する。
- 機関紙の名称が「にじのわ」に決定。毎月1回発行とする。
- トラック上での品揃えから、班単位の雑誌めへ変更に。
- 9月8日、宮崎南部市民生協設立（日南市）。
- 4月、宮崎南部市民生協と合併する。
- 商品の開発・改善、くらしを守る運動が、みんなの声をもとに行われるように組合員組織の運営へしくみを変える。
- 週二回配達を止める。前年度が赤字のため、初めて出資配当ができなかった。
- 除去食品カタログの取り扱いて、アレルギーで困っている組合員さんの願いに応えることができる。
- 週二回配達で、1500品目の品揃えを行い、個人別集品になる。
- 11月、店舗第1号の柳丸店がオープン。
- 旅行事業を始め、航空券の手配や、宿泊の斡旋などができるようになる。
- 9月、都城に都北店がオープン。
- 五ケ瀬町・五ケ瀬町農協・県民生協の三者による、五ケ瀬ふれあいの里、が完成。
- 共済の取り扱いを始める。
- 宮崎北・宮崎東支所を開設する。
- 4月、宮崎南部市民生協と合併する。
- 商品センターが完成。
- 商品の開発・改善、くらしを守る運動が、みんなの声をもとに行われるように組合員組織の運営へしくみを変える。
- 回覧注文から、個人ごとの注文にしくみを変える「CUR」を導入。
- 週単位の口座振替を始める。
- 宮崎県民生協開発商品第1号となる、CO・OPもめん豆腐、が完成。
- 高鍋・小林・宮崎西・宮崎南支所を開設する。
- 交通死亡事故を起こし、二度と事故を起こさないために安全の取り組みを強める。
- 注文用紙に商品名の印字を始める。個人別に納品請求書を配布できるようになる。
- 機関紙「にじのわ」が毎週発行になる。
- 宮崎市内を5つの地区に分けて、地区担当制を実施する。
- 宮崎市内の支所を一本化する。
- 延岡支所を開設する。
- 米の注文が始まる。
- 発泡スチロールの保冷箱を利用し始める。
- 「宮崎県民生活協同組合」に名称変更。
- 宮崎市東部支所、都城支所を開設する。
- 機関紙の名称が「にじのわ」に決定。毎月1回発行とする。
- トラック上での品揃えから、班単位の雑誌めへ変更に。
- 9月8日、宮崎南部市民生協設立（日南市）。
- 10月31日、北小路店（延岡市）オープン。
- 「日本でいちばん大切にしたい会社？」にコープみやざきが掲載されました。
- 「歳末満のお子さんがいらっしゃる組合員さんへの、戸別配達サービス料減額」、赤ちゃん戸配サービス、が実現しました。
- 延岡支所が新築移転しました。新築に当たり、冷凍・冷蔵の施設も新設しました。
- 設立40周年を迎え、色々な企画を実施しました。
- 第9回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞「最高賞の「経済産業大臣賞」を受賞しました。
- 設立40周年を迎え、「傘寿おめでとう企画」を始める。
- 10月、日知屋店が財光寺店として新築移転オープン。
- 4月、日南店がオープン。
- 1月、本郷店（宮崎市）がオープン。
- 組合員さんの要望に応え、「戸別配達サービス料」の減額開始年齢が70歳から65歳になる。
- 自治体指定「ごみ袋（延岡市・旧宮崎市・旧都城市・旧佐土原町・日南市）」が共同購入で注文できるようになる。
- 10月、主子製紙生協と合併する。
- 注文用紙に、過去一年間に利用した商品の網掛けを始める。
- 3月17日、宮脇店（宮崎市）オープン。
- 7月、花繰店（都城市）がオープン。
- 共同購入にこにこ便で冷凍品の取り扱いができるようになる。
- 4月、花ケ島店（宮崎市）がオープン。
- 共同購入で、商品注文登録制度、がスタート。
- 3月、高鍋店がオープン。
- 4月、かおる坂店（宮崎市）がオープン。
- 高千穂支所を開設する。
- 共同購入の注文がインターネットでできるようになる。
- 生協設立30周年を迎える。
- 正式名称を、生活協同組合コープみやざき、に変更。
- 組注文用紙が両面になり、600品目の商品名が掲載されるようになる。
- 二人世帯用のくらしを提案する。
- 組合員の「くらし」を基本に食品の量目見直しを行う。
- 一人・二人からでも配達ができる、「戸別配達」がスタート。
- 生活サービスで、「宅配復員プレフォ サービス」、「フラワー宅配サービス」、「CDビデオセンター」がスタート。
- 店舗で利用できる、「コープみやざき商品券」の運用スタート。
- 組合員一人ひとりの声を、丁寧に聴いて応えることを強めるため、「組合員の声カード（わが家の声カード）」の配布をスタート。
- 「コープにこにこ便」をスタート。
- ホームページスタート。
- 情報システム部門を㈱CMSとして別会社で設立。
- 組合員数が20万人を超える。
- 10月、浜町店（延岡市）がオープン。
- 共同購入の、時間外電話注文センター、がスタート。
- 生活サービスセンターで、コープBOOKセンター、がスタート。
- 一人からでも共同購入を利用できる個人受取場所が2ヵ所でスタート。
- 4月、小林店がオープン。
- 店舗受取班、を全店舗に設置。
- 5月、赤江店（宮崎市）がオープン。
- 1997年度（162,267人）
- 1998年度（170,670人）
- 1999年度（180,868人）
- 2000年度（185,201人）
- 2001年度（189,316人）
- 2002年度（194,603人）
- 2003年度（198,242人）
- 2004年度（201,145人）
- 2005年度（207,729人）
- 2006年度（213,610人）
- 2007年度（219,595人）
- 2009年度（227,360人）
- 2010年度（233,897人）
- 2011年度（237,267人）
- 2012年度（240,142人）
- 2013年度（242,743人）
- 2017年度（251,169人）
- 2018年度（253,450人）
- 2019年度（255,654人）
- 2020年度（260,138人）（2021年2月現在）

- 1973年度（設立時690人）
- 1974年度（1,621人）
- 1975年度（2,256人）
- 1978年度（3,575人）
- 1980年度（5,681人）
- 1982年度（9,023人）
- 1983年度（14,337人）
- 1984年度（22,179人）
- 1985年度（34,149人）
- 1986年度（42,885人）
- 1987年度（50,800人）
- 1988年度（61,618人）
- 1989年度（69,996人）
- 1990年度（80,206人）
- 1991年度（95,719人）
- 1992年度（106,914人）
- 1993年度（115,239人）
- 1994年度（129,555人）
- 1996年度（148,400人）
- 1997年度（162,267人）
- 1998年度（170,670人）
- 1999年度（180,868人）
- 2000年度（185,201人）
- 2001年度（189,316人）
- 2002年度（194,603人）
- 2003年度（198,242人）
- 2004年度（201,145人）
- 2005年度（207,729人）
- 2006年度（213,610人）
- 2007年度（219,595人）
- 2009年度（227,360人）
- 2010年度（233,897人）
- 2011年度（237,267人）
- 2012年度（240,142人）
- 2013年度（242,743人）
- 2017年度（251,169人）
- 2018年度（253,450人）
- 2019年度（255,654人）
- 2020年度（260,138人）（2021年2月現在）

- 6月、大塚店（宮崎市）・11月、日知屋店（日向市）がオープン。
- 店舗版機関紙となる「ハロー！コープ」の配布を始める。
- 住宅センターを新設する。
- 11月、佐土原店がオープン。
- これまで業者委託だった、五ケ瀬町・高千穂町・南郷村・西郷村・西米良村に、直接配達ができるようになる。
- 宮崎本部事務所を宮崎市瀬頭に移転。
- 生協設立20周年を迎え、「20周年のあゆみ」を発行。
- 組合員数が10万人を超える。
- 環境測定を始める。
- 週二回配達を止める。前年度が赤字のため、初めて出資配当ができなかった。
- 除去食品カタログの取り扱いて、アレルギーで困っている組合員さんの願いに応えることができる。
- 週二回配達で、1500品目の品揃えを行い、個人別集品になる。
- 11月、店舗第1号の柳丸店がオープン。
- 旅行事業を始め、航空券の手配や、宿泊の斡旋などができるようになる。
- 9月、都城に都北店がオープン。
- 五ケ瀬町・五ケ瀬町農協・県民生協の三者による、五ケ瀬ふれあいの里、が完成。
- 共済の取り扱いを始める。
- 宮崎北・宮崎東支所を開設する。
- 4月、宮崎南部市民生協と合併する。
- 商品センターが完成。
- 商品の開発・改善、くらしを守る運動が、みんなの声をもとに行われるように組合員組織の運営へしくみを変える。
- 回覧注文から、個人ごとの注文にしくみを変える「CUR」を導入。
- 週単位の口座振替を始める。
- 宮崎県民生協開発商品第1号となる、CO・OPもめん豆腐、が完成。
- 高鍋・小林・宮崎西・宮崎南支所を開設する。
- 交通死亡事故を起こし、二度と事故を起こさないために安全の取り組みを強める。
- 注文用紙に商品名の印字を始める。個人別に納品請求書を配布できるようになる。
- 機関紙「にじのわ」が毎週発行になる。
- 宮崎市内を5つの地区に分けて、地区担当制を実施する。
- 宮崎市内の支所を一本化する。
- 延岡支所を開設する。
- 米の注文が始まる。
- 発泡スチロールの保冷箱を利用し始める。
- 「宮崎県民生活協同組合」に名称変更。
- 宮崎市東部支所、都城支所を開設する。
- 機関紙の名称が「にじのわ」に決定。毎月1回発行とする。
- トラック上での品揃えから、班単位の雑誌めへ変更に。
- 9月8日、宮崎南部市民生協設立（日南市）。
- 10月31日、北小路店（延岡市）オープン。
- 「日本でいちばん大切にしたい会社？」にコープみやざきが掲載されました。
- 「歳末満のお子さんがいらっしゃる組合員さんへの、戸別配達サービス料減額」、赤ちゃん戸配サービス、が実現しました。
- 延岡支所が新築移転しました。新築に当たり、冷凍・冷蔵の施設も新設しました。
- 設立40周年を迎え、色々な企画を実施しました。
- 第9回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞「最高賞の「経済産業大臣賞」を受賞しました。
- 設立40周年を迎え、「傘寿おめでとう企画」を始める。
- 10月、日知屋店が財光寺店として新築移転オープン。
- 4月、日南店がオープン。
- 1月、本郷店（宮崎市）がオープン。
- 組合員さんの要望に応え、「戸別配達サービス料」の減額開始年齢が70歳から65歳になる。
- 自治体指定「ごみ袋（延岡市・旧宮崎市・旧都城市・旧佐土原町・日南市）」が共同購入で注文できるようになる。
- 10月、主子製紙生協と合併する。
- 注文用紙に、過去一年間に利用した商品の網掛けを始める。
- 3月17日、宮脇店（宮崎市）オープン。
- 7月、花繰店（都城市）がオープン。
- 共同購入にこにこ便で冷凍品の取り扱いができるようになる。
- 4月、花ケ島店（宮崎市）がオープン。
- 共同購入で、商品注文登録制度、がスタート。
- 3月、高鍋店がオープン。
- 4月、かおる坂店（宮崎市）がオープン。
- 高千穂支所を開設する。
- 共同購入の注文がインターネットでできるようになる。
- 生協設立30周年を迎える。
- 正式名称を、生活協同組合コープみやざき、に変更。
- 組注文用紙が両面になり、600品目の商品名が掲載されるようになる。
- 二人世帯用のくらしを提案する。
- 組合員の「くらし」を基本に食品の量目見直しを行う。
- 一人・二人からでも配達ができる、「戸別配達」がスタート。
- 生活サービスで、「宅配復員プレフォ サービス」、「フラワー宅配サービス」、「CDビデオセンター」がスタート。
- 店舗で利用できる、「コープみやざき商品券」の運用スタート。
- 組合員一人ひとりの声を、丁寧に聴いて応えることを強めるため、「組合員の声カード（わが家の声カード）」の配布をスタート。
- 「コープにこにこ便」をスタート。
- ホームページスタート。
- 情報システム部門を㈱CMSとして別会社で設立。
- 組合員数が20万人を超える。
- 10月、浜町店（延岡市）がオープン。
- 共同購入の、時間外電話注文センター、がスタート。
- 生活サービスセンターで、コープBOOKセンター、がスタート。
- 一人からでも共同購入を利用できる個人受取場所が2ヵ所でスタート。
- 4月、小林店がオープン。
- 店舗受取班、を全店舗に設置。
- 5月、赤江店（宮崎市）がオープン。
- 1997年度（162,267人）
- 1998年度（170,670人）
- 1999年度（180,868人）
- 2000年度（185,201人）
- 2001年度（189,316人）
- 2002年度（194,603人）
- 2003年度（198,242人）
- 2004年度（201,145人）
- 2005年度（207,729人）
- 2006年度（213,610人）
- 2007年度（219,595人）
- 2009年度（227,360人）
- 2010年度（233,897人）
- 2011年度（237,267人）
- 2012年度（240,142人）
- 2013年度（242,743人）
- 2017年度（251,169人）
- 2018年度（253,450人）
- 2019年度（255,654人）
- 2020年度（260,138人）（2021年2月現在）

- 1973年度（設立時690人）
- 1974年度（1,621人）
- 1975年度（2,256人）
- 1978年度（3,575人）
- 1980年度（5,681人）
- 1982年度（9,023人）
- 1983年度（14,337人）
- 1984年度（22,179人）
- 1985年度（34,149人）
- 1986年度（42,885人）
- 1987年度（50,800人）
- 1988年度（61,618人）
- 1989年度（69,996人）
- 1990年度（80,206人）
- 1991年度（95,719人）
- 1992年度（106,914人）
- 1993年度（115,239人）
- 1994年度（129,555人）
- 1996年度（148,400人）
- 1997年度（162,267人）
- 1998年度（170,670人）
- 1999年度（180,868人）
- 2000年度（185,201人）
- 2001年度（189,316人）
- 2002年度（194,603人）
- 2003年度（198,242人）
- 2004年度（201,145人）
- 2005年度（207,729人）
- 2006年度（213,610人）
- 2007年度（219,595人）
- 2009年度（227,360人）
- 2010年度（233,897人）
- 2011年度（237,267人）
- 2012年度（240,142人）
- 2013年度（242,743人）
- 2017年度（251,169人）
- 2018年度（253,450人）
- 2019年度（255,654人）
- 2020年度（260,138人）（2021年2月現在）

- 6月、大塚店（宮崎市）・11月、日知屋店（日向市）がオープン。
- 店舗版機関紙となる「ハロー！コープ」の配布を始める。
- 住宅センターを新設する。
- 11月、佐土原店がオープン。
- これまで業者委託だった、五ケ瀬町・高千穂町・南郷村・西郷村・西米良村に、直接配達ができるようになる。
- 宮崎本部事務所を宮崎市瀬頭に移転。
- 生協設立20周年を迎え、「20周年のあゆみ」を発行。
- 組合員数が10万人を超える。
- 環境測定を始める。
- 週二回配達を止める。前年度が赤字のため、初めて出資配当ができなかった。
- 除去食品カタログの取り扱いて、アレルギーで困っている組合員さんの願いに応えることができる。
- 週二回配達で、1500品目の品揃えを行い、個人別集品になる。
- 11月、店舗第1号の柳丸店がオープン。
- 旅行事業を始め、航空券の手配や、宿泊の斡旋などができるようになる。
- 9月、都城に都北店がオープン。
- 五ケ瀬町・五ケ瀬町農協・県民生協の三者による、五ケ瀬ふれあいの里、が完成。
- 共済の取り扱いを始める。
- 宮崎北・宮崎東支所を開設する。
- 4月、宮崎南部市民生協と合併する。
- 商品センターが完成。
- 商品の開発・改善、くらしを守る運動が、みんなの声をもとに行われるように組合員組織の運営へしくみを変える。
- 回覧注文から、個人ごとの注文にしくみを変える「CUR」を導入。
- 週単位の口座振替を始める。
- 宮崎県民生協開発商品第1号となる、CO・OPもめん豆腐、が完成。
- 高鍋・小林・宮崎西・宮崎南支所を開設する。
- 交通死亡事故を起こし、二度と事故を起こさないために安全の取り組みを強める。
- 注文用紙に商品名の印字を始める。個人別に納品請求書を配布できるようになる。
- 機関紙「にじのわ」が毎週発行になる。
- 宮崎市内を5つの地区に分けて、地区担当制を実施する。
- 宮崎市内の支所を一本化する。
- 延岡支所を開設する。
- 米の注文が始まる。
- 発泡スチロールの保冷箱を利用し始める。
- 「宮崎県民生活協同組合」に名称変更。
- 宮崎市東部支所、都城支所を開設する。
- 機関紙の名称が「にじのわ」に決定。毎月1回発行とする。
- トラック上での品揃えから、班単位の雑誌めへ変更に。
- 9月8日、宮崎南部市民生協設立（日南市）。
- 10月31日、北小路店（延岡市）オープン。
- 「日本でいちばん大切にしたい会社？」にコープみやざきが掲載されました。
- 「歳末満のお子さんがいらっしゃる組合員さんへの、戸別配達サービス料減額」、赤ちゃん戸配サービス、が実現しました。
- 延岡支所が新築移転しました。新築に当たり、冷凍・冷蔵の施設も新設しました。
- 設立40周年を迎え、色々な企画を実施しました。
- 第9回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞「最高賞の「経済産業大臣賞」を受賞しました。
- 設立40周年を迎え、「傘寿おめでとう企画」を始める。
- 10月、日知屋店が財光寺店として新築移転オープン。
- 4月、日南店がオープン。
- 1月、本郷店（宮崎市）がオープン。
- 組合員さんの要望に応え、「戸別配達サービス料」の減額開始年齢が70歳から65歳になる。
- 自治体指定「ごみ袋（延岡市・旧宮崎市・旧都城市・旧佐土原町・日南市）」が共同購入で注文できるようになる。
- 10月、主子製紙生協と合併する。
- 注文用紙に、過去一年間に利用した商品の網掛けを始める。
- 3月17日、宮脇店（宮崎市）オープン。
- 7月、花繰店（都城市）がオープン。
- 共同購入にこにこ便で冷凍品の取り扱いができるようになる。
- 4月、花ケ島店（宮崎市）がオープン。
- 共同購入で、商品注文登録制度、がスタート。
- 3月、高鍋店がオープン。
- 4月、かおる坂店（宮崎市）がオープン。
- 高千穂支所を開設する。
- 共同購入の注文がインターネットでできるようになる。
- 生協設立30周年を迎える。
- 正式名称を、生活協同組合コープみやざき、に変更。
- 組注文用紙が両面になり、600品目の商品名が掲載されるようになる。
- 二人世帯用のくらしを提案する。
- 組合員の「くらし」を基本に食品の量目見直しを行う。
- 一人・二人からでも配達ができる、「戸別配達」がスタート。
- 生活サービスで、「宅配復員プレフォ サービス」、「フラワー宅配サービス」、「CDビデオセンター」がスタート。
- 店舗で利用できる、「コープみやざき商品券」の運用スタート。
- 組合員一人ひとりの声を、丁寧に聴いて応えることを強めるため、「組合員の声カード（わが家の声カード）」の配布をスタート。
- 「コープにこにこ便」をスタート。
- ホームページスタート。
- 情報システム部門を㈱CMSとして別会社で設立。
- 組合員数が20万人を超える。
- 10月、浜町店（延岡市）がオープン。
- 共同購入の、時間外電話注文センター、がスタート。
- 生活サービスセンターで、コープBOOKセンター、がスタート。
- 一人からでも共同購入を利用できる個人受取場所が2ヵ所でスタート。
- 4月、小林店がオープン。
- 店舗受取班、を全店舗に設置。
- 5月、赤江店（宮崎市）がオープン。
- 1997年度（162,267人）
- 1998年度（170,670人）
- 1999年度（180,868人）
- 2000年度（185,201人）
- 2001年度（189,316人）
- 2002年度（194,603人）
- 2003年度（198,242人）
- 2004年度（201,145人）
- 2005年度（207,729人）
- 2006年度（213,610人）
- 2007年度（219,595人）
- 2009年度（227,360人）
- 2010年度（233,897人）
- 2011年度（237,267人）
- 2012年度（240,142人）
- 2013年度（242,743人）
- 2017年度（251,169人）
- 2018年度（253,450人）
- 2019年度（255,654人）
- 2020年度（260,138人）（2021年2月現在）

- 1973年度（設立時690人）
- 1974年度（1,621人）
- 1975年度（2,256人）
- 1978年度（3,575人）
- 1980年度（5,681人）
- 1982年度（9,023人）
- 1983年度（14,337人）
- 1984年度（22,179人）
- 1985年度（34,149人）
- 1986年度（42,885人）
- 1987年度（50,800人）
- 1988年度（61,618人）
- 1989年度（69,996人）
- 1990年度（80,206人）
- 1991年度（95,719人）
- 1992年度（106,914人）
- 1993年度（115,239人）
- 1994年度（129,555人）
- 1996年度（148,400人）
- 1997年度（162,267人）
- 1998年度（170,670人）
- 1999年度（180,868人）
- 2000年度（185,201人）
- 2001年度（189,316人）
- 2002年度（194,603人）
- 2003年度（198,242人）
- 2004年度（201,145人）
- 2005年度（207,729人）
- 2006年度（213,610人）
- 2007年度（219,595人）
- 2009年度（227,360人）
- 2010年度（233,897人）
- 2011年度（237,267人）
- 2012年度（240,142人）
- 2013年度（242,743人）
- 2017年度（251,169人）
- 2018年度（253,450人）
- 2019年度（255,654人）
- 2020年度（260,138人）（2021年2月現在）